

---

研究ノート

---

## 中華民國 80 年の社会

——『少年大頭春的生活週記』の台湾 社会事件編（その6）——

高橋明郎

### 0 はじめに

台湾のベストセラー作家張大春の『少年大頭春的生活週記』は、新聞連載小説として作品が執筆された民國80年（1991）の台湾社会の動きと並行して話が進行していく。それらの事件について、筆者は國家中央図書館所蔵の『聯合報』マイクロフィルムをもとに、内政編（その1）～（その3）<sup>(1)</sup>、社会事件編（その1）～（その5）<sup>(2)</sup>、人物編<sup>(3)</sup>、兩岸關係編<sup>(4)</sup>を示してきた。今回は、なお兩岸關係と交通關係の記事を扱う。

- 
- (1) 高橋明郎：中華民國80年の社会 ～『少年大頭春的生活週記』の台湾 内政編  
（その1）香川大学経済論叢 73巻4号 2001年3月  
（その2）香川大学経済論叢 78巻4号 2006年3月  
（その3）香川大学経済論叢 80巻2号 2007年8月
- (2) 高橋明郎：中華民國80年の社会 ～『少年大頭春的生活週記』の台湾 社会事件編  
（その1）香川大学経済論叢 74巻4号 2002年3月  
（その2）香川大学経済論叢 76巻4号 2004年3月  
（その3）香川大学経済論叢 77巻4号 2005年3月  
（その4）香川大学経済論叢 79巻4号 2007年3月  
（その5）香川大学経済論叢 80巻4号 2008年3月
- (3) 高橋明郎：中華民國80年の社会 ～『少年大頭春的生活週記』の台湾 人物編  
香川大学経済論叢 75巻4号 2003年3月
- (4) 高橋明郎：中華民國80年の社会 ～『少年大頭春的生活週記』の台湾 兩岸關係編  
香川大学経済論叢 81巻4号 2009年3月

## 1 ユニバーシアード選手の凱旋帰国

代表我國參加今年世界大學運動賽勇奪女子徑賽二百公尺金牌的王惠珍回國了。

《夢見離婚和老師》重要新聞 80.7.26~80.8.3

### 1.1 経 過

1991年第16回のユニバーシアード大会が英国シェフィールド（雪菲爾）で開催された。

このシェフィールド大会での結果は、聯合報でも試合進行に合わせて報じられたが、7月31日付での選手団帰国予定の報道に合わせ、主たる成果を紹介している。

小説に記載されている、陸上の王惠珍が女子200mで金メダル、100mで第4位、当時の台湾陸上界の女王、王淑華は幅跳びと100mハードルで決勝進出、6m43で21年前の紀政の6m35という台湾記録を破り、またハードルも13秒64で自己ベストを更新した。400mリレーは女子が4位、男子6位。

男子体操の張峰治は個人総合と鞍馬で決勝に進み、鞍馬では7位。女子バスケットは11位で、強敵（と聯合報は表現している）日本とスイスを破った。

帰国予定については、30日に代表団がロンドンから英国航空で香港に向かい、そこから中華航空で31日午後に帰国すること、到着後直接凱悦飯店に向かい毛高文教育部長主催の祝宴に臨むこと、王惠珍とコーチの蔡榮斌は8月1日10時に中華陸上協会名誉理事長の王揚吾と面会、支援に対し礼を述べることが報じられた。

また王淑華と米国在住の女子やり投げの李蕙貞はそのまま米国へ帰国するが、王淑華は10月に台中で行われる台湾での選手権に出場するため帰国予定であることも加えられている。

### 1.2 台湾と国際競技

中国オリンピック委員会は、1922年以来一貫して国際オリンピック委員会の中国代表メンバーで、中華民国の代表が国際オリンピック委員会に出席していた。

大陸の中国オリンピック委員会は人民共和國成立後、最初のオリンピックである

1952年のヘルシンキ大会に選手団を派遣した。しかし台湾を委員会メンバーに加えたことに新中国のオリンピック委員会は反発し、参加を中断した。従って中華民国はオリンピック委員会では、なお中国代表の形を取っていた。ローマからメキシコまで、中華民国は選手団を派遣したが、楊傳廣が銀、紀政が銅を獲得しただけであった。

しかし国連での動きに合わせ、中華人民共和国は1975年に国際オリンピック委員会に中国の代表権を要求、1977年に、中華人民共和国が当然中国の代表権を有することになり、台湾は中国台北オリンピック委員会への改称を迫られた。台湾は国連の二の舞にならぬよう自ら脱退する道は選ばず、結局オリンピック憲章で、選手団を派遣できる単位を国家でなく領土、国旗・国歌は選手団の団旗・団歌と称することで、台湾はこの組織で生き残った。このため Chinese Taipei は以後青天白日旗でなく、國花の梅と五輪をデザインした旗を使用することになり、民國 73 年 (1984) のロサンゼルス大会で、台湾はオリンピックに復帰<sup>(5)</sup>、兩岸の選手が異なったチームで出場し始め、間もなく北京で開催されたアジア大会でも同様の形式を取ることで出場を認められた。

今日運動競技の世界大会は、このロス五輪の時の方式が援用されることが多い<sup>(6)</sup>。

ただ、ユニバーシアードへの正式な参加は早くない。オリンピックでの戦果がはかばかしくなかったため、運動関係者は、青少年スポーツの底上げを企図し、民國 73 年 (1984) FISU (Fédération Internationale du Sport Universitaire 国際大学スポーツ連盟) に加盟申請、民國 75 年 (1986) 加盟が承認されて民國 76 年 (1987) のザグレブ大会から選手を派遣した。しかしザグレブ大会も、次の西ドイツでのデュースブルク大会でも成果は少なく、このシェフィールド大会で初めて上述のような成績を残せたのであり、特に最初に台湾に金メダルをもたらしたというだけでなく、女子陸上短距離で

(5) 1980年は多くの西側諸国が棄権したモスクワ大会だったので、台湾も選手を出していない。

(6) 黄嘉樹と林紅による『兩岸“外交戦”』(中国人民大學出版社 2007) は台湾代表権問題のモデルケースとして、ICSU や APEC と並んで、このオリンピック委員会への参加形態を解説している。

最初にユニバーシアードで金メダルを獲得したアジア人選手となった王恵珍は、大頭春のような中学生にとっても「偉大な」女性だった<sup>(7)</sup>。記事では、現地英国で華僑協会が開催した祝賀会で戴瑞明駐英代表が王恵珍を「兩岸中国人の光栄」と賞賛したことも併せて記されている。

王恵珍は民國 59 年（1970）台南縣生まれ。陸上の輝かしい成果のみならず、名門国立政治大學国際貿易系で学ぶという、正に文武両道の女性であった。王恵珍は次の米国バッファロー大会でも銅メダル、その翌年、民國 83 年（1994）広島でのアジアスポーツ大会（この時訪日して開会式出席を希望した李登輝総統に対し中国がボイコットをちらつかせて大会委員会や日本政府にヴィザを発給しないよう圧力をかけたのは記憶に新しい）の 200 m でも金メダルを取った。

中華民國政府も、中華台北の名前を広げる意味もあって福岡大会以降ユニバーシアードに大選手団を贈るようになった。

なお、この時期のスポーツ関係の国際展開については、兩岸関係編 152 頁「呼称問題」<sup>(4)</sup>も参照されたい。

## 2 ミス中国のスカンダル

中國小姐跟男朋友在旅館鬧緋聞，被開除摘去后冠。

《無名神功》重要新聞 80.10.12~80.11.2

### 2.1 経 過

民國 80 年（1991）のミス中国（中國小姐）となった盧淑芳が既婚の揚基国際公司經理胡廷雄（30）と、台北の豪香賓館で部屋を取っていたところ、胡廷雄の妻の通報で警察の搜索を受けた。胡廷雄の妻と盧淑芳の間では百万の慰謝料でかたがついた。ミス中国の主催者側は 29 日に盧淑芳のタイトルを剥奪し、第 2 位だった林蘭芷を第 1 位に繰り上げることとした。

(7) 「王恵珍真是一個偉大的女性。她為中國人得到第一面田徑賽的金牌，一定經過長期的努力」“少年大頭春的生活週記” 19 頁

聯合報は第一面中央に「美夢成空」のキャプションでコンクールで1, 2位になって廬淑芳と林蘭芷が並んで立つ写真を掲載した。

聯合報の各記事から時間順に経過を組み立てると、以下のようになる。

10月28日夕方6時ごろ胡廷雄の妻と、その乾弟と称する男子が台北大安警察分局新生南路派出所に現れ、ある女性が家庭を妨害していると告発、警官が姦通現場を押さえるよう要求した。

妻は法律通り告訴状にサインし、派出所で2時間待って、夜9時頃警官と台北市大安區復興南路一段の豪香賓館に向かい、支配人と、二人が「休憩」している6010号室をノックし、警察の臨検を告げた。数分後ドアが開くと、廬淑芳と胡廷雄が室内に立っており、廬淑芳は黒のカジュアルにジーンズ、胡廷雄は青の洋服で身繕いしていたが靴は履いていなかった。妻が胡廷雄と廬淑芳をその場で確認した後、二人は警察に連行された。この際、廬淑芳は胡廷雄に聞き取れぬ位の小声で、「彼女と離婚すると言っていたじゃない」と言ったあと、壁に向かって座り、胡廷雄は彼女を慰めていたという。

廬淑芳は警察では顔を見せないように壁に向かって座り、取り調べに対し、半年の付き合いであり胡廷雄に妻が居るのは知っていた。しかし二人は普通の友人で、ホテルでも話をするだけで性的関係は無かったと強調した。

妻は通報の際秘密にしてくれるよう要求、警察も家庭不和の案件の告訴人は大抵家庭内のスキャンダルを表に出したがるしないのを承知しているので、警察の食堂で3人の調査を取った。廬淑芳と胡廷雄は室内でお喋りしていただけたと男女関係を否認、妻も夫の説得で告訴せず賠償金を受け取った上和解の方向に同意した。

弁護士を自称する妻の女性の友人と3人の妻の親族が警察に駆けつけ、弁護士はその場で3人に和解書を呈示、胡廷雄の親戚は未記入の小切手2枚を取り寄せ、廬淑芳がサインした後妻に渡した。弁護士は和解内容を警察に伝えたがらず、また妻も告訴せず二人を許すと表明し、調査完成後すぐ立ち去り、廬淑芳は胡廷雄の付き添いで頭からコートをかぶって白のバンに乗って走り去った。

ただ警察は台湾でも民事不介入であり、この和解金のやりとりに関与していないと

発表した。

20才の廬淑芳は非常に緊張した様子で、調書、和解書、小切手にサインすると一刻も早く立ち去りたい一心で中身もあまり吟味していなかったという。

胡廷雄は妻と警官に踏み込まれて少し驚愕した様子だったが、警察では6時から9時まで話をしていただけで、二人はこの半年「普通の」友達だったと強調した。

調書作成中も絶えず妻と相談し、妻と廬淑芳を慰め、妻に許しを乞うた。

妻は通報時点で夫の不義の相手がミス中国であると名言していたが、これは人に調査してもらっていたからだとした。警察では、最初に派出所に妻が同伴した男性が調査員だったと見ている。妻は、自分は廬淑芳と面識はなく、夫が9月から一女性と交際しているのを知りその女性の身分を調査してもらった、28日二人がホテルにいるのを知って通報した、と述べた。

なお、聯合報は、刑法では、姦通事件は配偶者が許せばもう告訴できないきまりで、警察で訊問中許すと発言した段階で、妻はこれ以上法的措置を求められないと述べている。

## 2.2 コンテスト主催者の対応

次に聯合報各記事から主催側の対応を整理すると、下のようになる。

コンテスト主催者（選美協会）は10月29日午後はこの事実を知り廬淑芳と連絡を取ろうと努力した。廬淑芳は昼頃に唐日榮協会長に電話をかけたが生憎会長は不在だった。この電話で廬淑芳は「申し訳ない」と言っただけで、この時点で協会では何が起こったのか分からず、廬淑芳の言葉の意味をはかりかねていた。

唐日榮は取材に対し、大変驚いたと延べ、廬淑芳個人の問題で当協会とは無関係とした。そして第2位の林蘭芷の繰り上げ、11月下旬に中華民国を代表して英国で行われるミスユニバースコンクールに参加することを決め、廬淑芳の奨金60万元（12ヶ月分割払い）と40万元の賞品（王冠、ステッキ、楯など）も返還させることにした。この他協会は廬淑芳に50万元の賠償金を要求した。

ミス中国と協会は契約書を交わすが、そこにはスキャンダルや不名誉なことに關する規定は無いという。しかしミス中国選抜の趣旨に悖る行為として賠償を求めるということである。

唐協会長は、協会としてはミス中国のイメージ保持に全力を上げると表明、ディスクを含む不適切な場所に出かけないことを求めている。ただ盧淑芳は若いので思慮に欠け感情に流されたのは誠に遺憾とした。また盧淑芳がこの件に関して負う債務について協会は無関係だとした。

事件発覚後主催者の選美協会は外部に説明シマスコミに協会の立場を示し、また何とか盧淑芳と接触を試みた。また夜9時まで残業して彼女からの電話を待った。盧淑芳家でも彼女の安否を気づかっているが彼女からの電話を待つしかない状態である。

一方、聯合報は繰り上げでミス中国になった林蘭芷についてもスペースを割いている。その記事に拠れば、彼女も喜びの色は無く、泣きながら、「盧淑芳がこんなことになるとは想像もしていなかった。彼女は若くとも意志が強く、馬鹿なことをしないか心配している。」と語った。またミスユニバース出場については、全力で国民の期待に応えたいと述べたということである。

林蘭芷はこの年のコンクールでも盧淑芳と同じくらい好評で、僅か一点差で敗れた。

『聯合報』は彼女とのインタビューを紹介している。<sup>(8)</sup>

二人の略歴も掲載している。盧淑芳は河北省深縣を籍貫とする。放送大学の中文系に在学、172センチ、55キロで生け花や歌が得意として、紙上ではスリーサイズ（三圍）まで紹介されている。

民國 77 年（1988）初めてミス中国コンテストに参加し4位となり、今年再挑戦していた。水着と夜会服でトップとなって、優勝した。

林蘭芷は23才。福建省平潭縣を籍貫とし、台北商專卒業。東吳大學夜間の中文系3年在学中。172センチ、52キロ。書道が得意で、嘗て秘書やファッションモデルをしたことがある。

### 2.3 その後

盧淑芳はこの後姿をくまらず。聯合報は父親に取材しているが、それによれば、29日深夜11時30分、盧淑芳の父親は慌てて「娘がどこに行ったのか、どうしても見つからないので、家中焦っている。早く家に戻って欲しい」と語っている。

父親は、「彼女がこのような男性と付き合っているのは知らなかったのでこんなことになるとは思ってもよらない、今は早く連絡が付くのを祈るばかりで、一家中寝ずに待つほかない」と語った。

一方胡廷雄の父の発言も掲載されていて、彼は29日夜、「二人の関係は知っており息子に婚外関係をやめるよう言っていたが聞かなかった」としている。記事の紹介に拠れば、父親は十数年裁判所に勤務、数年前辞職して、現在は桃園市内のカラオケ店マネージャーをしている。胡廷雄の現在の夫人は民國73年(1984)裁判所に勤務していた女性と結婚、今年が7年目で、二人の娘がいる。

事態が落ち着くと盧淑芳は芸能界に入り、1990年代前半香港映画「終局獵殺」や「学校霸王」に出演。また金城武とサイダーの広告写真を撮ったりしていた。

---

(8) 記者：あなたの知っている盧淑芳はどんな人か。

林：非常にしっかりしている。お父さんが警官で、しつても厳しいということだったので、今度のような事は意外です。

記者：最近彼女はどんな気持ちでしたか。

林：私たちは仲が良くていつも何でも話していました。でも彼女は恋愛のことはあまり話しませんでした。ここ何日か彼女が時々鬱いでいたので尋ねると、ボーイフレンドと喧嘩したとだけ言ってそれ以上は話そうとしませんでした。今朝も私たちは一緒に英語の授業に出ましたが大分沈んでいました。尋ねると、恋愛問題とだけ言って、後で話すと言っていました。でも彼女が強く「死にたいわ(不想活了)」と言ったのでものすごく気になっていました。

記者：あなたの繰り上げが決まっていますか。

林：こんなことで1位になるとは実際思っていませんでしたし、少しも嬉しくありません。盧淑芳にこんな不幸が降りかかったのですから、彼女の為にもつらく感じていますし、無茶なことを考えないか案じています。

記者：今ミス中国第1位として覚悟のほどは。

林：コンクールはもうすぐですから一生懸命集中訓練を受け、英国での本番では力を発揮したい。それと自分の言葉や行動に注意してミス中国のイメージを壊さないようにします。私はみなさんがこれ以上盧淑芳にプレッシャーをかけ彼女を傷つけないで欲しいと思います。



なお唐日栄はミス中国、ミス佳楽などの美人コンテストを次々手がけ「選美大王」とまで言われたが民國 87 年（1998）58 才で病没している。

## 2.4 反 応

大頭春はこのミス中国に同情的であったが、世間の反応は厳しかった。<sup>(9)</sup>それは聯合報が述べているように、盧淑芳はミス中国に選出され世間に知られた存在になった以上半ば公人であって、「規範を逸脱すれば世論の誹りは免れない。社会はミス中国に美貌以外に品德を求める。これはミス中国に恋愛するなどということではなく、彼女の恋愛が道徳に則ったものでなければならないということである。」

汪士淳は特別原稿で、この件が問題なのは、法律上でなくあくまで道義上の問題だと解説した。

刑法の妨害家庭罪は、「配偶者がある者と姦通する者は 1 年以下の徒刑とし、相手も同罪」というものである。姦通を言う以上、この罪の成立要件は、既に配偶者を持つ者と男女関係を持って初めて成立するということである。

汪士淳の分析では、「単に二人が一部屋にいたことを以て直ちに二人の間に男女関係が発生していたとすることはできないし、警察が部屋に入ったとき着衣は乱れていなかった。」ことから法廷で妨害家庭罪が認められない可能性が高いというのである。

汪士淳はこの根拠となる判例として、台北地裁でこの事件の少し前に日本人商人と既婚の台湾人女性が深夜一室にいた事件が無罪になっていることを挙げている。

この日本人がらみの事件は、盧淑芳の件よりより疑わしい状況で、夫が警官と部屋に踏み込んだとき「日本人はパンツだけを穿いてベッドに横たわり、女はスポーツウェアでクローゼットにいた」のであった。それでも地裁は二人の姦通を示す直接の証拠はないとして無罪とした。

ただ、この判決でも、裁判官は法的立件と別に、道徳的に疑わしい行為を避けるべきだとの批判は判決文に加えている。「女性は、既に配偶者がありながら深夜に別の

(9) 「這個中國小姐太倒楣了。」“少年大頭春的生活週記” 63 頁

被告と一室にいるという疑わしき状況にあるのは、道徳的非難を受けるべきケースだ」とした。

というわけで、汪士淳は和解が成立していたとしても、また日本人の裁判事件よりも程度は軽いとはいえ道徳的誹りは免れず、非難を受けタイトルを剥奪されて当然というのが世論であった、と結んでいる。

## 2.5 ミス中国とスキャンダル

また聯合報の沈祥華記者はコンテスト自体の解説を加えている。

ミス中国は民國 48 年（1959）に第 1 回が開かれ、民國 53 年（1964）第 4 回が開催された後、主催者の撤退で中断、民國 77 年（1988）になってようやく台北市観光協会が佳楽小姐コンクールを主催、24 年中断していたミス中国コンテストが再開された。

沈記者は再開まで時間がかかったのは、国内に、内外のコンテスト受賞者のスキャンダル多発などを理由に反対論が強かったためとしている。

実際、第 2 回のミス中国はロンドンでのミス・ユニバースコンテストで 2 位となった李秀英で、国内の注目を集めた。彼女は韓国仁川出身の華僑で、当時国立芸専音楽科の学生だったが、やがて米国に行き、ラスベガスでヌードダンスに出ているというニュースが伝わって、国内では大きな議論を巻き起こした。西洋人の前でヌードになるということは、ミス中国の尊厳を損ない、国家の顔を潰したと世論の大非難を浴びたのである。この「西洋人の前で」というのが、誠に帝国主義列強の圧力から解放されてあまり時間がたっていない社会の極めて中華的、保守的な雰囲気を表しているように見える。

当時の彼女は弟妹の学費を工面せねばならないと言う家計の事情があったことや、実際は単なるダンスで、ヌードダンスで無かったことが後に分かるのだが、結局彼女は米国に移住した。

同じ回にやはりミス中国になった馬維君は名家の出だったが、やはり旧家の徐小波と婚約後解消してこれも国内を賑わすスキャンダルとなった。ミス中国のタイトルを

持っていたために彼女もひどく指弾された。

第 4 回ミス中国の林素幸はミスユニバースでも 3 位になったが、帰国後スキャンダルが暴露され、日本へ出国後消息を絶った。

また凌蕙蕙はミス中国再開後最初の佳楽小姐コンテストで優勝したが、翌年、主催者は彼女がかつてバーで働いていた経歴があり、ミス中国にふさわしくないとして、タイトル剥奪第 1 号となった（第 2 号が盧淑芳）。これはミス中国だけの事ではなく、1973 年のミスユニバース優勝者、米国の華蕾絲は受賞後スキャンダルが頻出してタイトル剥奪、翌年の優勝者摩根も、未婚の母だったことが発覚して、こちらは当選わずか 4 日後にタイトルを剥奪されている。

今日では、ミス中国は北京側が主催する行事であり中国国際文化伝播中心がとりしきっている。そして大陸、台湾など 4 地区で「分賽」の形式をとっている。このため台湾での選考は香港や澳門と同じ位置づけしか持っていない。

因みに第 3 回のミス中国は、誰あろう連戦前国民党主席の夫人連方瑀であった。

### 3 中華航空機墜落

華航貨機在萬里山墜毀，機員五名全數罹難。

《新年沒有新計劃》重要新聞 80・12・29-81・1・4

#### 3.1 経 過

民國 80 年 12 月 29 日、日曜日、14 時 53 分に桃園縣の中正国際空港（以下中正空港、現在の桃園国際空港）を離陸した中華航空 CI 358 便ボーイング 747 型貨物機は、離陸 6 分後に管制塔に左第 2 エンジンの不調を報告、管制官の指示で中正空港へ戻ろうとしたが、15 時 2 分に機影がレーダーから消えた。機体は後に台北県萬里郷の北基ゴルフ場付近に墜落しているのが発見された、という事故である。

聯合報の各記事から時間進行に従い経過を組み立てると下のようになる。

当該 CI 358 便は 14 時 53 分に離陸した後は東京上空から A-1 航路によりアンカ

レッジに向かう予定だった。14時59分に管制塔に2号エンジンの異常を報告、正常な航路を右へ逸れはじめたため、管制塔は左旋回して中正空港へ引き返すよう指示、空港の消防担当を配置につかせた。しかし黄副操縦士は管制塔に機体は左旋回できないと説明。

15時2分北緯25度39分、東経121度10分の地点でレーダーから機影が消えた。当時の飛行高度は6,000フィート。金機長も管制塔に、緊急に中正空港へ引き返す許可を求める際に、2号エンジンが突然故障し機体が傾斜、左旋回して海上へ出るのとは不可能と伝えており、そのまま山中に墜落した。

航空機が14時53分中正空港の5号左滑走路から東北に離陸した後のボイスレコーダーの内容も30日付で報道されている<sup>(10)</sup>。

民航局は15時16分に空軍に搜索救助要請、18分に空軍のヘリコプターが出動、15時26分に萬里郷山地で炎上中の機体を確認、機体はサッカー場2個分ほどの範囲に散乱していて遺体未発見との情報、また空軍は15時26分になって出動したとの情報もある（聯合報の後追い記事では、最終的に、民航局の出動依頼が18分ということらしく、台北の松山空港管制塔の記録では、ヘリコプターの離陸は26分となっている）。

地上で最初に墜落機を発見し警察に通報したのは現地の農民簡錦千。当時56才、金山の農会（農協）理事を務めていて、事故当時萬里の中幅路82号の自宅前で、飛

(10) 『聯合報』に紹介されたボイスレコーダーのやりとりは次の通り。

14:59 P: 2号エンジン OUT. レーダー誘導で中正空港へ戻ることを要求する。

T: 機首 050, 6,000 フィートを維持せよ。

P: 現在高度 5,500 フィート。

T: 5,000 フィートを維持せよ。機首を 270 度に向けよ。(即左転。T はレーダーで機体が右転しているのを発見: 原注)

T: ライトターンしているのか?

P: そうだ。レフトターンできない。

T: OK. ライトターン。機首を 270 度に保持 (西向き: 原注), 高度 5,000 フィートを維持せよ。

(レーダーは機体が方向転換しているのを示す)

15:00:32

P: プルアップ, プルアップ...あー (叫び声: 原注)

(P: 操縦士 T: 管制官 筆者注)

行機が火を噴きながら左傾して飛んでくるのを見て、家族に家に避難するよう叫び、その時機体は家の上を通過したが、近所の高圧線程度の高度しかなく、高圧線の 10 号鉄塔と 11 号鉄塔の間の方角に墜落した。

現場の山は標高 700 m 程、事故現場までは背丈ほどの草が生い茂っているため、近隣の農民と鎌で山道の草を取り除き警察や中華航空関係者を案内して山を越えて事故現場に至った。聯合報は「急難相助」の精神を発揮したと称えている。

また、同所簡清真の目撃では、飛行機は爆音をたてながら基隆から翡翠湾方向へ進み 90 度傾いて墜落した。尾部がまず発火、3 度の爆発音がした。現場は中幅子猪槽湖で、水は無かった、斜面越に、機首は大体見えたという。

一方墜落前にエンジンの一部が萬里郷中幅路 51-1 の郭文雄氏宅 3 階屋上に落下、軍が回収した。郭文雄家の嫁張庭樺は、当時家で昼寝をしていたが、轟音に驚き起きてみると 3 階屋上に砲弾のような形をしたエンジンカバーを発見、家族が萬里駐在所に連絡した。軍は郭家に人員を派遣して状況を確認すると現状保持を依頼、民航局と中華航空の関係者が 30 日にエンジンカバーを回収し鑑定する。

墜落確認後、航警局と台北県警察局消防隊、淡水、三芝、石門、金山、萬里、汐止等の消防局員、消防団員合わせて 400 名以上を派遣、19 時 30 分に一遺体を発見した。

墜落現場は 50 メートル四方の穴のようになっており、機体の残骸は二十数カ所に飛散炎上中。山地で気温が低下したため、21 時になると三十数名を警戒のため現場に残し下山、30 日に再搜索することとした。

陳思安航空警察局副局长は、記者団に、事故報告後直ちに現場に向かったが、既に現場は暗く、台北県警察局消防隊員が火が他の山に広がらぬよう警戒することが主たる仕事だったと説明した。

また、事故原因の究明は民航局の仕事であり、警察は現場処理に当たる。昨晚発見した遺体はばらばらで身分を確認できない。ブラックボックス（黒盒子）の回収にも務めたいとした。

### 3.2 中華航空の対応

次に聯合報から中華航空の対応を整理する。

中華航空幹部は現場と29日夜電話で情報収集、羅啓公関室主任が会見し捜索状況も含め発表した。それによると、中華航空の卞爽社長は29日に現場に入ったが、30日朝にも中華航空関連部署の責任者を連れて現場に向かう、乗員の家族は中華航空が手配した車で現場に向かうとした。

中華航空では副社長が7、8名の作業員と現場に向かったが、事故現場は散乱がひどく大きな破片すらなく粉々の状態で墜落時の衝撃の大きさを示している。また現場には火が各所で燃えていて、すでに暗くなっているため現場保存が警察の主たる仕事だった。だから大がかりな捜索は開始できていないが、生存者はいない模様だと述べた。29日夜10時以降事故現場で新たな発見は無いこと、機体も乗員もバラバラで何名の遺体かすら分かっていないことを明らかにした。

しかし身元確認まで家族は一縷の望みを持っており、中華航空としては現時点で弔慰金の問題を示せないとした。

### 3.3 政府の対応

政府側の対応であるが、事故が発生したのが日曜だったため、関係者への最初の連絡には少し手間取ったらしい。聯合報によれば、事故発生時簡又新交通部長（国交大臣に相当）はテレビ録画中で、携帯電話でも連絡が取れず、袁行遠民航局長も2度以上の電話連絡でようやくつかまった。

袁行遠局長は事故の知らせを受け直ちに民航局へ向かい、ようやく電話が通じた簡又新交通部長に事故を報告した。

簡又新交通部長は事故後民航局に対し、1) 乗員や地上での死傷者に備え迅速に対応すること、2) 事故原因の究明 3) 各航空会社は直ちに機体の検査状況、飛行の安全性に関する点を点検することを指示、民航局は同時に米国の在台協会を通じて米国航空安全局に電話し、ボーイング社及びエンジンを制作したP・W社に直ちに台湾に来て事故原因調査に協力するよう要請した。

袁行遠局長は取材に対し、現在事故はエンジン故障と関係があることは分かっているが詳細はブラックボックスの解析の後だとした。また梁龍民航局標準組組長は、ボーイング機は、たとえエンジンが二つ同時に故障しても飛行できるはずであるのに、今回の機材がなぜ方向転換できずそのまま右転していったかが今後の調査の重点だと指摘した。

中華航空墜落後、交通部民航局標準組技術者達は事故原因の調査チームを結成した。聯合報は、その1名の見解として、次の見方を紹介している。

まず第一に、中華航空貨物機の昨日の積載は221,003ポンドで、積載可能量の9割程度で過積載ではない（キロで言うと最大積載量は105,000キロ、事故機は当時92,614キロの貨物を積んでいた）。

次に、積載物は、ほとんどがコンピュータ部品、衣類、カメラ機材で、事前に航空警察局的な安全検査規定をパスし、倉庫に24時間保管されている。税関も安全検査員も可燃物や爆発を生ずるような化学物質を確認していない。

更に、中華航空機は29日午後2時53分中正空港滑走路を南から北へ離陸、数分後高度6,000～8,000フィートにおいてエンジン停止を発見引き返すこととした。通常の飛行規程では、引き返す場合降下時に安全のため外洋上で余分な燃料を廃棄してから降下する。中華航空機はおそらく外海へ出る際に燃料が引火、最終的に墜落したと見られ、この間数分のできごとだったと考えられる。

また、こうした状況では機長は機体を水平に維持するため通常第3エンジンをoffにするが、機長はこの措置を行っておらず、彼が処理範囲を超えた状況、対応不能な重大な機体の故障（油漏れ、出火、操縦系統の故障を含む）にぶつかったのは明らかだとしている。

以上のことから、人為的要素は初期に除外され、機体故障が主原因と見られる。ただ原因特定にはブラックボックス解析を待つ必要がある。

一方聯合報の記者の一人は台北発として、民航局幹部の一人が、事故当日「今回の事故は絶対エンジン自体が原因ではない」と述べたとも報じている。

つまり飛行機は設計時に、万一エンジンに故障が起きても他のエンジンが正常なら

安全に飛行が続けられるように考えられている。今回の事故機は4つのエンジンがあり、一つ、最悪たとえ二つとも毀れても、理論上は残りの2エンジンで安全な飛行が保てた筈であり、こうした事態は珍しいことではない。なぜ中華航空機が突然墜落したか、これはエンジン故障が他の操縦系統に重大な損傷をもたらしたと考えるべきであるというのがその見解で、上の調査チームの見解とも合致する。

原因については、結局エンジン脱落による墜落ということになっているが、脱落にいたる経過は明確にならなかった。ただ、後述の那覇空港での中華航空機炎上事故で、ボルト脱落によるエンジン発火が強く疑われた際に、この民国80年の貨物機のエンジン発火脱落との類似点を想起した人が何人もいたようである。

### 3.4 事故機の過去

エンジン不調による事故と示唆されたことで、聯合報も事故機体とその点検整備状況について詳述している。

ボーイング747-200F当該機は事故の起きた民国80年12月21日と10月10日にA級、B級検査を受けており特に問題はなかった。

A級検査から事故までの飛行時間は74時間、B級検査後の飛行時間は1003時間。

事故機ボーイング747-200Fは、機齢11年、今年A、B、Cの3種の検査に合格している。最新の検査は8日前の12月21日に行われており、また故障したとされる2号エンジンは3,500時間しか使用しておらず、異常発生のおそれがない範囲だと民航局は発表した。

民航局は、この3種検査で重大な不具合はなかったと発表したが、小さな補修に関しては中華航空は公表していない。またD級検査は民国75年(1986)12月31日に、2分の一D級検査(MPV)は民国78年(1989)12月15日に行われている。

記事は当時の民航局標準組の説明を引いて、

機体は小規模から大規模までA~Dの4クラスの検査が設けられている。飛行時間350時間ごとにA級検査、131日ごとにB級検査、13ヶ月ごとにC級検査



があり、飛行時間 25,000 時間ごとの D 検査前に、飛行時間 12,500 時間で 2 分の一 D 級検査が設定される。検査には A 級が一晩、B 級が 24 時間、C 級は 3～6 日だが、2 分の一 D 級は 15 日、D 級に至っては 35 日も要する。

メーター、油圧、無線機器、電子部品は必ず検査するが、A 級は簡便なもので、B、C、D は X 線、超音波、赤外線などの非破壊検査設備を使用する。機種、機齢により規定は異なる。D 級では座席、床、操縦パネル、エンジンなどもすべて取り外して行く。いずれにせよ事故予防の改修、部品交換を目的とする。

ただしエンジン本体は、それ独自の検査補修計画があり、一定の飛行時間もしくは離着陸数によっており、場合によってはエンジンを交換する。

と解説している。

聯合報が機体の状況と共に大きく扱ったのは、事故機の過去の因縁である。

この機材 B 198 は民國 69 年（1980）10 月 10 日製造、民國 74 年（1985）6 月 9 日ルクセンブルク航空から交通部民航局が 6000 万ドルで購入、レンタル方式で中華航空に貸し出し、15 年で償還を終える計画だった。

当時中華航空が国際線に使用していた貨物機は B 1894、B 198、B 160 の 3 機で、ニューヨーク、ダラス、サンフランシスコ、ロサンゼルス、アンカレジ、東京、香港、バンコク、シンガポール、デリー、アムステルダムと台北・高雄間での貨物輸送に使われていた。

実はこのボーイング 747-200 F の中華航空貨物機は皮肉なことに曰く付きの機体だった。

この B 198 機こそ、かつて大陸の広州にハイジャックされた機体である。この件については前稿でも触れた。<sup>(4)</sup> 民國 75 年（1986）5 月 3 日にシンガポールから香港に向かっていましたが、機長の王錫爵が董光興副操縦士と邱明志航空機関士に強制して中国広州の白雲空港に着陸を強行したもので、これも蔣経國総統が大陸探親解禁する引き金の一つとなった事件であった。結局 5 月 24 日になって機体は香港経由で台北に回送された。

また、聯合報は中華航空の発表として、中華航空は当時上記 3 機の貨物専用機以外

に貨物を積載できる旅客機 25 機をもっており、貨物専用機がすべて使えなくとも、貨物輸送に対応できること、機体には中央産物、中国産物、台湾産物の 3 保険会社に 6 千万元の保険がかけてあり、各保険会社はまた、ロンドンの BAIG に再保険していて賠償の心配はないとしたことを伝えている。

### 3.5 罹 災 者

この事故は貨物機の事故だったため、搭乗していたのは乗組員 5 名だけである。

通常の航空事故では罹災した乗客やその家族の報道で紙面が埋め尽くされるが、貨物機の場合は死亡したのが航空関係者だけということで、扱いは大きくない。それでも全員の簡単な履歴は紙面で紹介されている。

金治平機長 (54, 同紙 3 面では 53)<sup>(11)</sup>、安徽省含山縣出身、陸軍士官学校 30 期卒。陸軍航空訓練班を修了し、米国陸軍航空学校でも 1 年の訓練を受け民國 68 年 (1979) 紹介で中華航空に入り、民國 71 年 (1982) 機長資格試験に合格、飛行時間は 12,678 時間。

羅正喜操縦士 (47) は重慶出身。空軍士官学校 47 期卒。民國 72 年 (1983) 7 月 1 日中華航空に入り民國 76 年 (1987) 資格試験合格、民國 78 年 (1989) にボーイング 747 型の操縦士となった。飛行時間は 95,010 時間。

黄君燦副操縦士 (48) は広東省南海縣の出身。羅正喜操縦士と同期の空軍士官学校 47 期卒。民國 78 年 (1989) 中華航空に入り事故の年民國 80 年 (1991) 10 月に資格試験に合格したばかり。飛行時間は 7,543 時間。

謝又昌機関士 (40) 浙江省餘姚縣出身。民國 66 年 (1977) 8 月に中華航空入社、民國 72 年 (1983) 航空機関士の免許を受け、民國 73 年 (1984) 11 月からボーイング 747 型の航空機関士となった。飛行時間は 7,297 時間。

朱正吉機関士 (49) は台南市出身。民國 61 年 (1972) 4 月に中華航空入社、民國 62 年 (1973) 航空機関士免許を取り民國 69 年 (1980) から航空機関士として乗務している。飛行時間は 15,786 時間。

---

(11) 乗員の年齢は、いずれも第 1 面のもので、3 面では、全員等しく 1 歳若く記されている。

操縦士、航空機関士が複数なのは、この貨物機が長距離運行の定期便に当たり、二組の乗員を配置しなければならなかったためである。

また補償についても別に記事があり、5名の乗員には中華航空が加入している賠償の他3種の保険が支払われる。

中華航空の発表では、労工（労災）保険、國華人寿の壽險（生命保険）、乗組員1名当たり5万円の事故保険で、香港の美隆保険会社が保証している。

事故の場合、搭乗予定だったのに乗れずに九死に一生を得た人や、その逆にもととの予約を変更して事故機に当たったというエピソードがマスコミの好むところである。今回僅か5名の罹災者の中からも聯合報はそのエピソードを見つけだしている。

即ち、この便は孔令徳操縦士が担当することになっていたが、孔操縦士は事故前日シンガポールからこの機体を操縦して台湾にもどったばかりで休息が必要であったため、予備だった羅操縦士が代わりに乗務したのであった。

### 3.6 事故地点

舞台となった萬里は台湾北部。北部の基幹港である基隆から台湾海峡に面した淡水まで海岸線を走る国道があり、その中間辺が金山。基隆市街を取り囲む山を抜けると国道は九十九折りの道を下り海岸線に寄り添うが、その辺りが萬里で、かなり大きな看板が立っている。この辺から金山までは、基金公路という国道で、途中野柳風景区などの観光資源にも恵まれ、淡水－基隆間直行の客運の他、基隆から金山折り返しの便もかなり多く、台北駅から金山青年中心までの国光バスが頻発していて、バスの便は非常に良い。街区は海岸に近い所に集中し、後ろに山塊を背負っている。

中正空港から日本への航空機に乗れば、通常は台湾海峡沿いに北上し石門（ここが日本の本島に最も近く、日本兵が台湾に上陸した地点である）を越えて所謂A-1航路に入ってゆく。石門は上述の北部海岸の公路でいうと金山より淡水寄りにあり、管制塔の左旋回指示は、台湾海峡方向に誘導していて、上述の中正空港に緊急回航する際の規定に合致する。一方萬里の中幅山には、本来の航路から本当に右に90度以上旋回しないとぶつからない。

墜落した現場は、萬里から新脚を結ぶ萬新公路沿いに東へ入った方向になる。

ところで、この北部海岸は、これも前稿で述べた原発に近い。台湾電力の核二廠から墜落現場は五キロしか離れていない。聯合報は「如果撞進核電廠…？」と、この危険性にも紙幅を割いている。そこに台湾電力の陳鵬昌氏のコメントを紹介しているが、それによると、米国の原発設置基準で、原発は航空路の下に設置しないことになっており、台湾もこの米国の基準に従って、稼働中の3原発はいずれも航空路の下を避けて建設されている。この事故の場合、緊急時に予測される航路も飛行できずに墜落したわけで、この可能性をゼロにはできないわけであるが、逆にコントロールを失った機体がたまたま原発に墜落してしまう可能性は極端に小さいとも言える。

ただ各原発は衝突防護を想定した建築にはなっていて、当時の核二廠でも、一応 F 16 クラスが当たっても周囲に壊滅的な打撃が生じないような設計はされているというのであった。

### 3.7 中華航空

中華航空は中華民国の所謂ナショナルフラッグで、China Airline の名称は、現在も大陸ではなく台湾のこの会社が握っている。台湾の航空会社としては嘗て国際線を独占していたし、この事故のクルーの前歴を見て分かるように操縦士は中華民国の空軍での経験者が多く、操縦が丁寧という評判が立ったことはない。それでも日本線に限って言えば、中国に気兼ねした日本政府のおかげで、長い間成田の新東京国際空港の供用が認められず（後発の台湾の民間会社長栄航空は最初から成田使用が認められている）、結果的に数年前まで羽田出発唯一の定期国際便だったため、その利便性を買われてチケットが取りにくかった。

操縦士の出自が関係するかどうかはともかく、近年記憶に残る事故を数多く引き起こして、IATA 加盟国の航空会社の重大事故率ではトップ争いをしていたものである。

萬里での墜落の5年前にも B 737 が台湾海峡に墜落、2年前には花蓮加禮苑山に激突している。

またこの萬里の事故後も香港啓徳空港でボーイング 747-400 B がオーバーランして海に突っ込み、民國 83 年（1994）には名古屋（小牧）空港でエアバス 300-600 R

が着陸に失敗して 250 名以上の死者を出した。民國 87 年 (1998) には桃園の中正空港でやはりエアバス 300 R が進入に失敗、着陸復航を試みたが墜落、民國 88 年 (1999) には香港赤鯊角空港で MD 11 が横風にあおられて転覆炎上、民國 90 年 (2001) 香港でボーイング 747 - 200 が滑走路に誤進入、離陸直前の中国東方航空機とあやうく衝突しかけた。民國 91 年 (2002) 1 月エアバス 343 がアンカレジ空港で誤って滑走路でなく誘導路から離陸、わずか 4 ヶ月後には香港発台北行きボーイング 747 - 200 (萬里に墜落したのと同型で、この時点で中華航空が保有する最後のボーイング 747 - 200 だった) が台湾海峡上空で空中分解して墜落、これも 200 人以上の死者が出た。更に民國 96 年 (2007) に那覇空港で着陸直後にエンジンから発火、間もなく機体全体が炎上したのは我々の記憶に新しい。

因みに中華航空最初の重大事故は、台北近郊で日本製の YS 11 が山に激突したものであった。

(接)